

第5回 諏訪市まち・ひと・しごと創生本部会議 会議録

- 日 時 平成27年12月25日（金）午後2時～3時45分
- 会 場 諏訪市役所 201 会議室
- 出席者
 - <本部長>
金子市長
 - <副本部長>
平林副市長、小島教育長
 - <本部員>
関総務部長、河西企画部長、伊藤市民部長、土田健康福祉部長、飯塚経済部長、
竹内建設部長、宮下水道局長、高見教育次長、松崎議会事務局長
 - <幹事>
木島企画調整課長、花岡財政課長、小松こども課長、前澤健康推進課長、矢花都市計画課長
 - <事務局>
前田企画調整係長、牛山企画調整係主査
- 欠席者
湯沢会計管理者、金原総務課長、河西まちづくり・男女共同参画推進課長、大館商工課長、
河西教育総務課長
- 会議結果
 - ① 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略を最終決定した。
※全体の微調整等については事務局に一任。
- 会議概要
 - 1 開会
(河西企画部長)
 - ・本日の創生本部会議にて、諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略を最終決定したい。
 - ・本部長の金子市長よりご挨拶いただきたい。
 - 2 本部長挨拶
(金子市長)
 - ・今回の創生本部会議において、諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略を最終決定する。
 - ・これまで、計6回のまち・ひと・しごと創生有識者会議を開催し、総合戦略に対して様々な

ご意見をいただいた。住民意識調査やパブリックコメントを実施するとともに、市議会からもご意見をいただいている。

- ・庁内的にも、まち・ひと・しごと創生本部会議のほか、関係課長及び係長による総合戦略策定部会により検討を行い、若手職員による〈まち・ひと・必刷仕事人〉ワークショップを開催し、特色ある事業提案も受けている。
- ・諏訪地域 6 市町村による広域的な連携については、各市町村の総合戦略に共通項目として盛り込むことについて諏訪広域正副連合長会議にて合意を得ている。
- ・本日、協議する総合戦略（最終案）は、様々なご提案やご意見を受け、「輝く SUWA」の創生を目指すため、丁寧な議論を重ねて策定を進めてきたものである。今回の会議でも、前向きなご意見をいただきたいと思います。

3 協議事項

(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合（最終案）について

(事務局)

※資料No.1 に基づき説明

(本部長)

- ・総合戦略（最終案）について、質問、意見があれば伺いたい。
～質問、意見なし～

(本部長)

- ・5年後の数値目標、KPIの達成に向けて気合を入れて「爆進」したい。
- ・これまでにいただいた様々なご意見を反映して策定してきた。諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、決定としたいが承認をいただきたい。
～承認の声～

(本部長)

- ・諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略を決定した。冊子、概要版作製に向けて、最終的な微調整については事務局に一任する。
- ・総合戦略策定にあたり、様々な職員が関与してきた。総合戦略に対する意識も浸透してきている。KPIの達成に向けて、平成28年度予算にも様々な施策、事業を盛り込みたい。

4 意見交換

(本部長)

- ・総合戦略の最終決定を受けて、今後の取組みを進めるにあたり本部員、幹事より意見を伺いたい。

(本部員)

- ・全庁的な協力体制により総合戦略を完成させることができた。
- ・まち・ひと・しごと創生有識者会議にて様々な意見をいただき、総合戦略のコンセプトを検討する中で、御柱に見立てることで四本の柱の優先順位を示すなど、総合戦略の「見せ方」についても工夫ができた。

・これからは総合戦略の実現に向けての取組みを協力して進めていきたい。

(本部長)

・今後は総合戦略の進行管理が重要となる。四本の柱のバックアップをお願いしたい。

(本部員)

- ・人口を増やす、人々に訪れてもらえるようなまちづくりを進めるため、交通網整備が必要となる。国道20号バイパスや諏訪湖サービスエリアのスマートICなどが動き出している。着実に推進できるよう取り組んでいきたい。
- ・動脈的な道路整備のほか、地域の生活道路整備も進めたい。諏訪湖周のサイクリングロードについても、長野県などと検討を進めている。

(本部員)

- ・『ものづくり』で『ひとづくり』というコンセプトを掲げることができ、「ひと」を大切にするという姿勢を見せることができていると思う。
- ・産業界と連携して「ものづくり教育」に取り組むことで、キャリア教育の中核としての「ものづくり教育」を強化したい。「相手意識に立つものづくり」により、ユーザー視点や思いやりの心を育てたい。
- ・教育委員会では「学びのまちづくり」を進めている。諏訪市版総合戦略との方向性にも合致している。

(本部長)

・「ひとづくり」に教育施策は密接に関わっている。「最先端に挑み続ける」ことができる人材育成が必要である。

(本部員)

- ・石破地方創生担当大臣より、総合戦略策定に議会も関わるよう、議長宛てに書簡が送られている。議長とも協議する中で、市長に対して提言を行うなど、他市町村よりも前向きに関わりを持つことができた。
- ・PDCAによる進行管理には議会も関わることになる。

(本部員)

- ・人口減少社会を迎え、市税も減少することが予想される。市としてどの分野に力を入れていくのか、事業の重点化が求められる。
- ・総合戦略に基づく取組みを進めるにあたり、市民に関心を持ってもらうことも焦点となる。

(本部員)

- ・四之柱に基づく施策について、自然環境の保全是継続的な取組みが必要となる。
- ・再生可能エネルギーの普及促進については、国の動きに左右される部分はあるが、地域資源の活用により域内マネーを循環させることで、経済的にも地域を潤わせることができる。これまでとは異なる切り口で施策を考えていきたい。

(本部長)

・四之柱は、諏訪市に住む人々が利便性を享受して快適に暮らすことを目指す、基礎的な部分である。確実な取組みをお願いしたい。

(本部員)

・KPIの目標値達成に向けた施策を検討したい。

- ・子育て支援や高齢者福祉については、国の政策が変わってきている。総合戦略とどのようにマッチングさせるか、また、第五次総合計画後期基本計画とのすり合わせが今後の課題になると思う。

(本部長)

- ・子育て支援や健康予防、高齢者福祉など、総合戦略に対して幅広く関連がある。市としての特徴も出しやすい分野であると思う。CCRCもあるため、研究をしてもらいたい。

(本部員)

- ・一之柱は経済関連、一之柱を引くことができていることに光榮に思う。
- ・総合戦略策定にあたり、経済部職員で施策を考える中で、工業分野や商業分野などの振興策について、金融機関との連携を進めるとともに、企業側にとってどのような支援策が必要となるか検討することができた。総合戦略の策定過程も、今後の取り組み展開にあたり大いに役に立った。
- ・観光振興による交流人口増加について、関係者とは常に顔を合わせて取り組みを進めているところである。今後、共通のプラットフォームを構築できれば、より自由度の高い観光を実現することができる。

(本部員)

- ・移住者が多い自治体はライフラインが充実している。水道、温泉、下水道の維持管理、充実を図り、諏訪市のライフラインを整備していきたい。

(本部長)

- ・諏訪市は水道料金が安く、おいしい水であるということもセールスポイントの一つである。

(幹事)

- ・戻ってきたいと思える、安全・安心に住むことができるまちには何が必要となるか、コンパクトシティも含めて、都市計画による基盤整備を考えなければならない。

(本部長)

- ・景観に対する取り組みも検討したい。観光地としてもワンランクアップさせたい。
- ・上諏訪駅前、中心市街地あり方検討にあたって課題がある。基盤整備は中心市街地活性化のバックアップにあたり重要な分野である。

(幹事)

- ・人が集まるまちづくりには、医療と教育が重要となる。諏訪市には諏訪赤十字病院があり、診療所や若い開業医も多い。これらの強みを持続できるようにしたい。
- ・子育てへの切れ目のない支援を実現するため、産後ケア事業をスタートする。積極的にPRしていきたい。
- ・少子高齢化社会を迎え、健康寿命の延伸を図る必要がある。若いうちからの健康づくりに対する意識啓発に向け、新たな仕組みを考えたい。

(本部長)

- ・「しごと」で活躍してもらった後、健康で長生きをしてもらいたい。豊かな自然環境に囲まれて生きいき暮らす、諏訪市での生活のPRにもつながる。

(幹事)

- ・限られた行政資源の中で、必要な施策を打ち出したい。

- ・子育て支援に対するニーズも多様化している。それぞれに対応できる施策を検討したい。

(本部長)

- ・女性が活躍できる社会、若い世代が活躍できる社会の実現に向けて、子育て支援は重要である。
- ・諏訪市における子育ても仕事として認める保育認定基準は好評である。

(幹事)

- ・人口減少が続けば、税収も減少して諏訪市の財政状況も厳しくなる。財源とのバランスを取りながら総合戦略を進めていかなければならない。国の動向を見据え、事業効果も見ながら施策を考えたい。
- ・全ての施策が中途半端でも効果は期待できないため、厚く財源を配分する分野も必要である。

(副本部長)

- ・市長のリーダーシップにより総合戦略策定を進めることができた。
- ・「ひとづくり」の重要性を明確に総合戦略に盛り込むことができた良かったと思う。
- ・まち・ひと・しごと創生本部会議では、諏訪市の様々な可能性を論じてきた。総合戦略を策定した結果として諏訪市の良い部分をたくさん掘り出すことができた。
- ・御柱祭は細心の注意と事前の準備があってこそ行うことができるもの。総合戦略も現状分析により明確な目標を掲げて、「ひとづくり」により未来を担う子どもたちを育てるものである。夢を描くことができる取組みを進めたい。

(事務局)

- ・総合戦略の基本コンセプトに掲げたテーマ「最先端に挑み続ける『ものづくり』で『ひとづくり』『輝くSUWA』の創生戦略」、この一言を考えるだけでも相当な労力と時間をかけている。外部有識者や関係課の職員、若手職員など、様々な関係者からいただいた提案や意見がこの言葉に集約されている。諏訪市にとって大切なテーマとして、これからの事業につなげていきたいと思う。

(事務局)

- ・この1年間、国の平成26年度補正予算による地方創生先行型交付金の対応からまち・ひと・しごと創生の取組みを進めてきた。
- ・市議会議員からは市民が小綱を持って曳くんだという意見が出たが、諏訪市役所は元綱として総合戦略を牽引していきたい。

(事務局)

- ・総合戦略の策定だけで終わるのではなく、総合戦略に基づき何をするのか、何ができたのかという効果検証により、総合戦略を常に生きた計画とできるよう進行管理をしっかりとしていきたい。
- ・まち・ひと・しごと創生本部会議をはじめ、総合戦略策定部会や若手職員のワークショップなど、多くの職員に関わっていただいた。それぞれの部署が関わる戦略として、これからの取組みにつなげていきたい。

(本部長)

- ・様々な意見、想いをいただいた。平成27年5月のまち・ひと・しごと創生本部会議の立

ち上げから約 7 か月、全庁をあげた取組みにより諏訪市版総合戦略を策定した。

- ・これからが「輝く SUWA」の創生戦略の本当のスタートとなる。全庁一丸となって、市民を巻き込みながら、総合戦略の達成に向けて邁進していきたい。

5 その他

(河西企画部長)

- ・企画調整課から地方創生加速化交付金、地方創生新型交付金について説明したい。

(牛山企画調整係主査)

※資料No.4 に基づき説明。

6 閉会

(平林副市長)

- ・諏訪市版総合戦略の策定にあたり、諏訪市は平成 27 年 4 月に市長選挙があったことから、新市長の意向を総合戦略に反映させるため、他の自治体よりも着手時期を遅らせ、5 月スタートとなった。
- ・庁内での協議のほか、まち・ひと・しごと創生有識者会議やパブリックコメント、市議会からの意見聴取など、様々な過程を経て策定を進めてきた。また、金子市長の意向により広域連携を掲げることができた。
- ・茅野市が「縄文」、岡谷市が「シルク」をテーマとする中で、諏訪市らしさとは何かということが議論となった。諏訪市の根幹は「ものづくり」であるということで、「しごと」を中心に据えるために一之柱に位置付けた。「ものづくり」を再認識するということでも意味があったと思う。
- ・国も補正予算により財源的な後押しをしている。平成 26 年度補正予算の地方創生先行型交付金、平成 27 年度補正予算の地方創生加速化交付金、平成 28 年度からは地方創生の深化のための新型交付金が創設される。しかし、最終的には交付金に頼らない自立が求められる。
- ・まち・ひと・しごと創生を進めるにあたり、市民の理解が必要となる。財政的な痛みが伴う場合もある。平成 28 年度は地域課題を住民と行政がともに考える新たな部署を立ち上げる。